



地域と共に

2022年秋号

Vol.90

- 就任のご挨拶
- 職員による写真展示会
- 地域周産期母子医療センターとして
- 診療科紹介 第18回 乳腺外科
- 目の愛護デー

基本方針

1. **患者第一主義** 常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します。
2. **安全確保** すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り、安全で質の高い医療を提供します。
3. **社会貢献** 良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします。
4. **公正で透明性のある病院** 高い倫理観に基づき様々な情報を開示します。
5. **働きがいのある職場作り** 創造性、主体性を尊重しあい自由に働きやすい職場を実現します。



<http://www.sagamino.jcho.go.jp>



FS522898 ISO9001:2015



人間ドック・健診施設機能評価認定施設



Security

優れた安全対策で皆様を守ります。

Speed

すべてに迅速な対応を心がけます。

Service

先進の医療を快適に提供します。

Sympathy

患者の皆様と想いを共有します。



就任のご挨拶



事務部長 織田 修治

当地域の皆さま、大変遅ればせながらご挨拶申し上げます。本年4月より事務部長として勤務させて頂いております、織田修治と申します。以前はJCHO本部、都内の2病院、山梨県の病院勤務を経て、当院に参りました。

ここ数年に亘る未曾有のコロナ禍の中、皆さまに直接お目にかかってご挨拶できる機会は殆ど無く、当紙面をお借りしてご挨拶ができることを大変嬉しく思います。

相模野病院は、私共JCHOの57有る病院の中でも、診療部門と健診部門とのいわゆる二刀流で、地域の皆さまに支えられながら共に歩んでいる病院であるという評判を予てから耳にしておりましたので、大変興味深く着任いたしました。朝の受付開始時の様子を拝見し、患者さま・受診者さまが非常に多く来院されていることに大変驚かされました。

さて、皆さまご承知の通り、医療機関を巡る問題は数多く、国の施策である地域医療構想、医師の働き方改革、環境問題への配慮、更に本年にあってはウクライナを巡る問題が生じたこと等による諸物価の上昇等、加えて新型コロナウイルスの再々拡大等の諸事項に対して迅速かつ適切に対応することが必要となりますが、これらの問題への対応に際しても、地域の皆さま、自治体の皆さまのご指導・ご協力を賜りつつ、公的医療機関としての責務を全うできるよう、積極的に取り組んで参る所存です。

当院が引き続き、当地域の皆さまの健康な生活のお役に立てるよう、職員一同一丸となってより良い病院創りに向け、その一助となれるよう日々の業務を遂行していく上で、私共、事務方といたしましては、縁の下に居る力持ちの黒衣となるべく、精一杯努力して参りますので、何卒お力添えを頂けると幸いです。



職員による写真展示会

職員から作品を募り、約1年間の予定で院内に写真を展示しています。

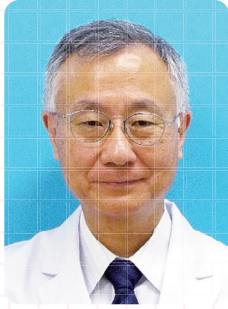
写真愛好家たちによる、近隣の公園で撮影した植物の写真から観光地で撮影した風景写真や春夏秋冬の季節感あふれる写真まで、幅広い作品が寄せられています。

患者さんの待ち時間などでご鑑賞頂ければ幸いです。



地域周産期

母子医療センターとして



周産期母子医療センター顧問

北里大学名誉教授 海野 信也

2022年4月より、周産期母子医療センターの顧問として相模野病院の一員にさせていただきました海野でございます。これまでは北里大学病院でこの地域の産科・周産期医療の仕組みの改善のための仕事をしておりました。

機会をいただきましたので、相模野病院が地域周産期母子医療センターとして果たしている役割についてご説明させていただきます。

神奈川県には妊娠・出産・新生児の救急疾患に対応する仕組みとして、周産期救急医療システムというものがあります。県内を6つのブロック内に分けて、それぞれのブロックに24時間体制で、一般の分娩取扱い施設で発生した周産期救急患者さんの受入を担当する「基幹病院」、「中核病院」、「協力病院」を指定するというものです。相模原市は、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町とともに県央・北相ブロックに属しています。このブロックでは、11病院と7診療所が分娩を取り扱っていますが、その中で北里大学病院が基幹病院として、相模野病院が中核病院として、お互いに密接に連携し、助け合って、いろいろな分娩施設からの救急患者さんの受入を担っています。（協力病院は大和市立病院と相模原協同病院が担当しています。）

妊娠・出産に関連した救急医療の分野では、新生児に対する医療がちゃんと提供できるかどうかが非常に重要です。産科の方では受入れできても、生まれる赤ちゃんの治療がちゃんとできなければ、よい結果は得られないからです。相模野病院には新生児のための病床として12床のNICUと14床のGCUがあり、この数は県内の他の中核病院・地域周産期母子医療センターと比べても、とても大きいものです。北里大学病院のNICUが満床になりそうなときでも、相模野病院が妊婦さんや赤ちゃんを引き受けることで、重症患者さんを確実に受け入れる余力を生みだすことができます。このような病院間の連携の取組のおかげで、この地域の周産期救急患者さんを、他のブロックや県外に送り出すことは本当に少なくなっています。

相模野病院の産婦人科と小児科NICUは、安全で安心な出産が地域でできる体制を支える上で、この地域全体の妊産婦さんと赤ちゃんに対して非常に重要な役割を担っていることになります。

現在、わが国では医療体制の大きな改革が進められています。お産に関わる領域もその影響を受けざるを得ないと考えられます。地域によっては今後、救急患者さん等の受入体制に支障をきたすところも出てくるかもしれません。しかし、この地域の妊産婦の皆様には、どうか安心していただきたいと思います。当院が周産期医療の分野において、とても高い水準の医療を提供できる特別な病院であること、そして安定した地域周産期医療体制の確保に大きな役割を果たしていることをご理解いただき、安心して受診していただくようお願い申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

乳腺外科

乳腺外科 部長 林 京子

診療科紹介

第18回



当院の乳腺外科を紹介させていただきます。

乳腺外科が扱う主な疾患は乳癌です。今や女性の10人に1人が乳癌に罹患する時代になりました。

当院は2012年から日本乳癌学会認定施設になり相模原市では2施設しかありません。そのうちの1施設が当院です。乳腺専門医・指導医の資格をもつ女性医師が2人も常勤医としています。私たちは北里大学の乳腺外科で10-20年修行した後に相模野病院に着任しました。ひとりは知性派、もうひとりはリーダー派です。どちらが主治医になるのかは運です。しかし治療方針が異なることはありません。私たちはよく話あって治療

方針を決定します。治療の選択肢はすべて提示しますが、最後に決断するのは患者さん自身だと思っています。

乳癌の診断にはマンモグラフィ検診が必須です。私たちのマンモグラフィ読影ランクは最高ランクのASおよびAです。精査が必要と判断される患者様には迅速に針生検を行います。針生検は超音波下で穿刺する特殊な技術で当院では乳腺専門のエコー機器800万円、プローブは130万円を備えており小さな病変を見逃さない、いわゆる自称「乳癌ハンター」と言われるのはこれらの機器と私たちのテクニックがあるからだと思います。

乳癌の治療は年齢、乳癌のタイプや治療時期、次々と新しい薬の登場によって治療を複雑化しています。私たちは学会、研修会に積極的に参加し新しい情報を得、患者さんに最適な治療を提供しています。

最近遺伝カウンセリングの話題があります。アメリカの有名な女優アンジェリーナ・ジョリーがBRCA遺伝子変異を持つことで両側乳房切除を行ったと報道されました。当院は臨床遺伝専門医かつ乳腺指導医の藁谷医師が保険適応になったBRCA検査を積極的に提案しています。これができるのも当院の特徴です。

毎週水曜日は乳腺外科医が相模原市乳癌検診を行っています。

乳癌で悩まないようにより早い診断のために2年に1回のマンモグラフィ検査をお受けください。



10月10日は目の愛護デー

眼科部長 春日井紘子

『10月10日は目の愛護デー』、皆様ご存知でしょうか？

人が得る情報の80%は眼から入るといわれています。

目の健康を保ち生活の質を保つために、眼科受診や健診時眼科検査、インターネットを利用したセルフチェック、片眼でウインクして試みる、などできることから始めてみてはいかがでしょうか？

人生100年時代、いつまでも見えるために、『目の愛護デー』が眼の健康について考えるきっかけになれば幸いです。

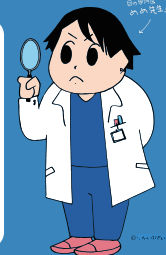
ご興味のある方は、日本眼科医会ホームページをご覧ください。

のばそう 目の健康寿命

アイフレイルチェック

- ☐ 目が疲れやすくなった
- ☐ 夕方になると見えにくくなることもある
- ☐ 新聞や本を長時間開くことが少なくなった
- ☐ 食事の時にテーブルを汚すことがある
- ☐ 眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった
- ☐ まぶしく感じやすい
- ☐ まばたきしないときや目を閉じないことがある
- ☐ まっすぐの線が曲がって見えることがある
- ☐ 緑内障や糖尿病が心配ないと感じたことがある
- ☐ 番号や道路標識を見落とすことがある

チェック項目のうち3つ以上当てはまる方は要注視！
アイフレイルについて詳しくはこちら ▶



10月10日は目の愛護デー

眼科医はあなたの目の健康をサポートします

公益社団法人 日本眼科医会



独立行政法人 地域医療機能推進機構

相模野病院

〒252-0206 神奈川県相模原市中央区淵野辺1-2-30

TEL:042-752-2025(代) FAX:042-754-9543(代)

発行責任者：今泉 弘 企画・制作：企画広報委員会